



納所 裕美子さん

Yumiko Noshio

PROFILE

1972年、岡山市生まれ。岡山県立西大寺高等学校、岡山科学技術専門学校建築デザイン学科卒業。インテリアやカラーコーディネイト、デザインなどの仕事を経て、1994年から設計事務所に勤務。1998年、26歳で一級建築士試験に合格、2005年11月、33歳で独立、納所裕美子一級建築士事務所を設立する。ほぼ同時に「女性社長の会」を組織し代表に就任。今年3月、岡山・香川の女性起業家交流会「キャリアビューティフォーラム（CBF）」を開催し注目を集める。不動産業を営む夫と昨年結婚、今年2月に男児を出産したばかり。小さいころから読書が大好きで、小中高では剣道、20代はライブシンガーとしても活躍し、最近はヨガや茶道にはまるなど、趣味・特技は多彩。

“仕事も家庭も綺麗も” 諦めない一級建築士

年齢・職業を問わない「女性社長の会」を設立
女性が輝いて生きるために起業を呼びかけ

一昔前の女性といえば「仕事か家庭か」。それが近年「仕事も家庭も」が当たり前となり、今では「仕事も家庭も綺麗も」が女性の最も理想とする生き方だという。「これを実現するのなら、女性も起業するのが一番です」と言い切るのは、一級建築士の納所裕美子さん。33歳で起業し、女性社長らに交流の場を提供する女性社長の会を設立。今年第一子を出産したばかりで、今も授乳しながら、でも、おしゃれにしながらに仕事を続ける毎日だ。

子どもの時から将来は社長に!

実家が印刷会社を営んでいたせいか、小さいころから独立志向で、いずれは

社長になると決めていました。ただ、弟がいたので跡を継ぐのは彼。私は自分のやりたいことをしようと考え、高校卒業後、自分の好きなことや適性、仕事の将来性など考慮して、建築士を目指そうと思ったんです。もともと絵を描くのが好きで、図面を引くのはお手のもの。でも勉強はあまり好きではなかったのが、難関といわれる一級建築士試験に合格した時には、かつての専門学校の先生も驚いてましたね（笑）。

20代の女性で一級建築士というのは珍しく、一目置いてもらえる面もありましたが、勤めている間はしよせんアシスタント。当時は結婚したら仕事ができなくなると考えていました。30歳前後の女性って、“仕事か家庭か”で

迷う人が多いと思うんです。私も30歳になった時、ふと思いました。「自分の目指していたことが何も実現できていない。私には何も無い」と。

そこで一念発起。厄年が終わる3年後の33歳の誕生日には独立しようと決心し、準備を始めました。独立1年前には、岡山県商工会連合会主催の女性だけの起業塾をはじめ、“創業”“起業”と名の付く塾やセミナーに片っ端から参加し、東京にまで足を延ばしたこともありましたね。

思いを共有する女性の会を

女性社長の会は、そんな女性対象の起業セミナーをきっかけに、平成17